

土と基礎

平成21年8月号 第57巻第8号

## 地盤工学会誌

特集

## 最新の CPT テクノロジー

Latest Development of CPT Technology

●本号特集担当編集委員：林 昌弘 (主査)

宇野浩樹	新清晃	田代むつみ
中村邦彦	西山高士	高橋英紀
竹信正寛	玉手聡	船山淳
吉田輝		

## 本号の編集にあたって

本号は「最新の CPT テクノロジー」についての特集号です。三村衛先生を委員長として平成18年～20年度に設置された「最近の CPT テクノロジーとその設計・環境・防災への適用に関する研究委員会」での研究活動の成果を報告していただきます。

コーン貫入試験（電気式静的コーン貫入試験；CPT）は、地盤調査法としては世界で最も広く使用されている試験法で、先端抵抗、周面摩擦、間隙水圧を標準的に測定することが可能であり、他の地盤調査法と比べて多様な情報を連続的に得ることができるという特長を有しています。我が国では地盤の堆積環境が、河口デルタであっても山地からの急流河川によって運搬される砂礫が存在し、静的貫入に対しては機械的なトラブルが多発するため、地盤調査法としては標準貫入試験（SPT）が席卷しています。しかしながら、CPT は多様な地盤情報を連続的に取得できるという優位性に加え、近年、強く求められるようになった性能設計への対応についても、SPT と比べてより優れた情報を与えることが可能です。ヨーロッパ諸国は言うに及ばず、SPT が広く実施されているアメリカにおいても、近年、貫入設備を大幅に改良したものが開発（Wireline CPT and Hybrid Penetration；第40回地盤工学研究発表会・DS13, J.D. Sinn II 発表）されており、地盤の複雑さを乗り越える新技術の開発により、CPT の適用性を広く利用しようという気運にあります。

本号においては三村委員長による CPT の現状と展望をはじめ、CPT のばらつき要因、力学特性推定に加えて、地盤環境分野の展開やポールコーン試験の適用等をまとめました。本号が国内の CPT 普及に少しでもお役に立てれば幸いです。

新清 晃 (しんせい あきら)

地盤工学会のホームページ URL <http://www.jiban.or.jp/>国際地盤工学会ホームページ <http://www.issmge.org/>

編集兼発行者：社団法人 地盤工学会